

第3章 事業者調査

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、実際に観光に携わっている区内外の民間事業者等が持つ葛飾区の観光に関する意見等を把握することにより、民間事業者等との連携やノウハウを生かした観光施策等を検討していくことを目的として実施する。

(2) 調査の対象等

事業者・団体		日時・場所	
区内	亀有地区商店街協議会	平成30年1月11日	亀有銀座商店街振興組合
	柴又神明会	平成30年1月12日	高木屋老舗
	株式会社 R.project	平成30年1月12日	SHIBAMATA FU-TEN BED & LOCAL
区外	東京観光財団	平成30年1月11日	東京都観光財団観光情報課
	東京観光情報センター	平成30年1月11日	東京観光情報センター京成上野
	株式会社はとバス	平成30年1月12日	株式会社はとバス本社定期観光部

2. 調査のまとめ

観光に関する事業者、団体に対して実施したヒアリングにより得られた視点は以下の通りである。

①東京都内の観光客の動向（日本人観光客・外国人観光客）

●観光客全体は若干の減少、訪都外国人は増加し続けている。

- ・平成28年でみると、東京都全体では、観光客の総数は若干の減。日本人旅行者は旅行志向の縮小や旅行先の分散化等の影響を受けているとみられている。
- ・訪都外国人の数は平成24年以来増え続けており、平成28年には1,300万人を超えている。但し訪日外国人の伸び率に比べると、訪都外国人の伸び率は大きくない。東京、京都等以外への訪問が増えてきて分散化してきているものとみられている。

②東京都内の観光客の消費動向（日本人観光客・外国人観光客）

●観光客全体、訪都外国人とも若干の減少となっている。

- ・観光消費額は訪都旅行者全体、外国人観光客とも、平成28年は前年より減少している。全体では、旅行者数が減少していることが影響しており、外国人観光客ではその年の円高傾向と、中国人の消費動向の変化が影響しているとみられている。日本人観光客の観光消費額は、人数の減少や消費意欲の低下等を受けたための減少とされている。

③葛飾区内の観光客の動向（日本人観光客・外国人観光客）

- 亀有地域は外国人が増え、柴又地域は日本人・外国人ともに増えている。
 - ・ 柴又地域への来客は増えており、1年に1割ずつぐらいは伸びているのではないかと。土日は満員状態であり、各店舗の面積もさほど大きくないので、クオリティコントロールも考えなくてはならない。
 - ・ 亀有では、直近の2、3年で日本人客は伸びているという感覚はないが、台湾からを始めとした外国人観光客は伸び続けている。正確な統計を取っているわけではないが、両さん像を目的とした観光客は日本人と台湾人の比率が「2対3」程度になっているのではないかと。
 - ・ 現在、柴又では宿泊客の2、3割が外国人観光客でアジア、ヨーロッパの様々な国からの宿泊客がある。ネットでさがして予約されてこられた方がほとんどで、インドネシア・マレーシアのファミリーが目立つ。室内にキッチンを完備しているので、ハラルメニューをまかなえるということが理由のようである。日本人客はビジネスで利用の方が現在は多い。
 - ・ 定期観光バスの葛飾（柴又帝釈天）を含む2コースは年間6,000～7,000名の実績があり、季節毎に「帝釈天お正月コース」などを追加設定している。年間設定の2コースは、「街歩き」「歴史・文化」「食事・グルメ」と葛飾の魅力が活かされたコースである。
- 回遊性の状況
 - ・ 他地域との回遊では、柴又では浅草から来る（一般、定期観光バス）コースが多い。最近では皇居から柴又へ来るコースもある。山本亭、寅さん記念館へも行かれる方が多くなっていると聞いている。
 - ・ 回遊状況は不明であるが、あまり回遊していないのではないかと。亀有からは成田空港と東京ディズニーリゾートへの直行のバスが運航している。その他の地区へのバス、区内の周遊ルートの開設も希望する。
 - ・ 柴又は京成電鉄で成田空港、羽田空港へほぼ直行でつながっているので、海外からの最初の宿泊地点として選んでいただいているのだと考えている。

④葛飾区内の観光客の消費動向（日本人観光客・外国人観光客）

- 東京都全体と同様に消費額は伸びていない
 - ・ 柴又地域、亀有地域とも訪問客数は増えている（亀有は外国人が増えている）ということであるが、消費するものはあまり変動がないので、消費額については大きく伸びているということは考えにくい。
 - ・ 柴又地域の施設に宿泊する場合、宿では食事を提供していないので、宿泊費用のみならず、飲食費、交通費等の消費がなされることになり、観光消費額の増大が期待できる。

⑤葛飾区内の観光資源の変容

- 「葛飾柴又の文化的景観」の重要文化的景観への選定答申
 - ・ 柴又地区については、若年層の方が「昭和ブーム」で来訪が増えてきているという見方もあり、また「葛飾柴又の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されるということに関する問い合わせ

せも増えている。これからも、寅さんのみならず、「日本の古き良き街なみ」をアピールしていくことになる。

⑥観光客獲得に向けた取組み

●認知度を維持するために継続的にイベントを実施し、新しい顧客を誘客するために新商品・体験プランを開発している。

- ・亀有では、両さん像を平成29年までに15体に増やしたが、両さん関連イベントを毎年11月に開催しており、最近では「両さんベーゴマ大会」が定着している。その他のイベントとしては「両さんそっくりさんコンテスト」「宝さがし」「スタンプラリー」等を不定期に実施している。両さんグッズの製作・販売も商店街振興組合が企画したもので、商店街の店舗でストラップ等を販売している。
- ・スタンプラリーは元々、亀有地区の大型商業施設（施設内に「こち亀ゲームぱ〜く」がある）と、両さん像のある商店街の間の回遊性を高めるために企画し、繰り返し開催している。
- ・柴又では、ランドオペレーター主催の訪日外国人用の和菓子体験（和菓子作り、団子作り）ツアーの受入れ、イベント会社主催の婚活パーティーの受入れを実施している。非常に好評であるが、1回の実施で25名しか受け入れられないのが課題。
- ・映画のロケ地が参加して2015年から「寅さんサミット」を開催し、「寅さん」のまちとして、また、古き良き日本の原風景を大切に守っているまちとして、柴又地域のアピールを続けている。
- ・東京観光財団の国際会議等プロモーションで、柴又をユニークベニュー[※]としてアピールしていたと予定となっている。
- ・柴又での宿泊客を増やすために、まずは認知度を上げるために、数多くの国内外の予約サイトに登録するようにしている。

※ ユニークベニューとは、会議やイベント、レセプション等を特別感を演出しながら開催できる会場（歴史的建造物や美術館等）のこと

⑦区内における観光振興のために必要な施設

●「街並みの永続的な保存」は柴又、亀有の両地区とも挙げられた。

- ・ボランティアガイドの組織（柴又地域）
- ・大型観光バスの駐車場（亀有地域）
- ・団体収容可能な飲食施設（亀有地域）
- ・街並みの永続的な保存（柴又地域、亀有地域）
- ・宿泊施設（ホテル）（亀有地域）
- ・多言語の観光案内所（柴又地域）

⑧観光振興に関する課題

●区内の回遊性を高めることと、夜の観光アイテムを展開し滞在時間を長くする工夫が必要

- ・観光資源（葛飾区全体）は寺社等も多く、夕刻を過ぎると人通りが少なくなるのを懸念している。また、回遊性が乏しいのも課題の一つと考えており、成田や羽田への直行バスと同じように、区内の各スポットをつなぐバスの路線の開発を亀有では希望している。
- ・柴又は朝早く、夜も早い地域である。5時になると参道の人通りも少なくなる。近隣の飲食施設、宿泊施設に誘導して、滞在時間の延長と回遊性の向上を図りたい。夜の時間まで滞在いただくように区内の他地域との連携を図りたい。
- ・バス事業者としては、葛飾区を含め東京都の全体的な課題として、夜の観光スポット、ナイトライフの商材不足がある。世界の他国との比較では圧倒的に夜の観光が少ない。浅草の仲見世、柴又帝釈天参道の閉店時間も早い。川崎市は工場夜景をプロモーションしている。

⑨行政に期待する支援

- 引き続き観光振興に注力していただきたい。
- ・観光課の組織がしっかりしてきていると考えており、これまでより一層、観光振興に注力いただきたい。商店街等の組織では、新しいことに取組むにも資金的に問題があるので、その面での支援をお願いしたい。
- ・新しい施設は、認知度を上げるのが当面の責務であるので、観光関連のホームページ等でアピールできるようお願いしたい。